



伊達小次郎の墓所 (津山)

津山町横山にある長谷寺の南側、右念山の山頂に伊達政宗の実弟、伊達小次郎の墓所があります。なぜ横山の地に墓所があるのか。そこには、わずかに13歳にして、兄の手によって命を絶たれた小次郎の悲運が隠されています。天正18年(1590)豊臣秀吉が天下統一を進め、関東以北制圧の第一歩として小田原城を攻撃した際、政宗はじっくりと戦況を見極めた後、参陣を決意します。そのとき、弟である小次郎を伊達家の藩主にしようとしていた母は、出陣を祝うたげを装って、毒殺を企てますが失敗します。

小田原参陣を目前に、政宗・小次郎、両派の対立が明らかになり、政宗は藩内の意志を統一しようと、「そちに罪はないが、母の罪を問う事はできぬ」と自らの手で小次郎を手打ちにします。

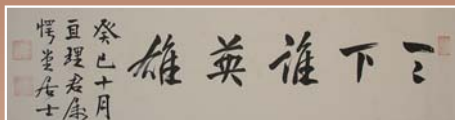
小次郎の遺体は、伊達家の領地であった福島県内の寺に埋葬されましたが、後の国替えによって、旧葛西氏・大崎氏の領地が与えられ、横山の地を母の化粧領地と定めた際に、この地に改葬されました。(津山町史参考)

【所在地】登米市津山町横山字久保163番地
【問い合わせ】津山総合支所地域生活課 ☎0225 (68) 3111

歴史博物館

広報ミニ展示室 29

= 尾崎行雄書「天下誰英雄」
(天下の英雄は誰か) =



書の中に「愕堂」の雅号が見受けられます

この書は初代東京市長であった尾崎行雄によるものです。この書には面白いエピソードが隠れています。はじめ雅号(本名以外につける風雅な名)を「学堂」と称していたそうですが、大同団結運動という藩閥政府を攻撃した事件を起こしたことから政府の発した保安条例(自由民権運動を弾圧するため、秘密の集会・結社を禁じた)によって東京退去を命じられ、このとき「道理が引込む時勢を愕」と言い、愕然となったことから雅号を「愕堂」に変更したとされています。そんな時期に戊辰の役で敗れた最後の佐沼城主、亘理隆胤に出会い送ったのでしょうか。書に見える「亘理君属」の「属」とは、同じような立場の仲間という意味があり、行雄34歳の癸巳(明治26年)に書かれています。

とよま秋祭り

9/20(土)・21(日)

【20日・宵祭り】
▶ 新能
伝統芸能伝承館「森舞台」
17:00~20:00 全席指定1,500~2,500円(※予約制)
▶ 小笠原流弓術
教育資料館前庭 14:00~15:00
【21日・本祭り】
▶ 山車・みこし・武者行列
町内中心部(寺池地区)
10:00~
▶ 五葉山火縄銃鉄砲隊演武
登米交通公園
11:30~
▶ 神楽大会
伝統芸能伝承館「森舞台」
15:00~18:00
【問い合わせ】
登米総合支所地域生活課
☎ 0220(52)5051



東和 綱木之里大名行列

【日時】 9月21日(日)
11:00~12:00
【場所】 東和町米川地区
八幡神社出発
【内容】 騎馬先陣、道中奉行、天狗と獅子、稚児行列など、総勢100人で繰り広げられる行列
【問い合わせ】
東和総合支所
地域生活課
☎ 0220(53)4111



「モバイルとめ」もご利用ください。
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービスが新しくなりました。
tome@entry.mail-dpt.jp (携帯用)